

2024年5月31日

(抗議談話)

核戦争に反対する医師の会
代表世話人 中川 武夫
原 和人
向山 新
天谷 静雄

臨界前核実験に強く抗議する

アメリカ合衆国エネルギー省核安全保障局は、2024年5月14日に臨界前核実験を行ったと発表した。核爆発を伴わないとはいえ核実験であることは明白であり、私たちは、いのちと健康を守る医師・歯科医師として、この核実験の実施に激しい怒りを覚える。

いま、「核兵器のない世界」へ進むことが国際社会の大きな流れとなっている。2021年1月に発効した核兵器禁止条約は、核兵器の開発・保有・使用の威嚇などを国際的に違法化したもので、既に70カ国が批准している。核実験の実施は、核兵器禁止条約でまさに違法とされる行為である。たとえ米国が条約に反対の立場をとり批准していないとしても、国際的規範への冒涇であり挑戦である。米国も加わる核不拡散条約（NPT）6条の核軍縮義務にも違反するものだ。

米国は、臨界前核実験の実施は、核戦力増強を進める中国やロシア、北朝鮮に対する抑止力強化の一環だと表明している。核実験は、爆発をともなわずとも核軍拡競争を煽り、ウクライナやパレスチナなどの紛争地で、核兵器使用の危険性を高めるものである。事実、ロシアのプーチン大統領やイスラエルのネタニヤフ首相が核兵器の使用を示唆しているように、核保有国がこれまで主張してきた「核抑止」による国際安全保障論は空論に過ぎないことは明らかである。核兵器は、人類の生存を脅かす兵器でしかなく、その廃絶こそが最大の国際的安全保障である。

私たちは、ヒロシマ・ナガサキの被爆者をはじめ、核兵器の廃絶を求める世界の人々の期待や願いを踏みにじる米国の核実験実施に強く抗議する。また、米国は今後、臨界前核実験の頻度を増やす計画を立てていると報道されているが、臨界前とはいえ、核実験の実施は断固として認められない。米国政府に対し、今後予定している実験を中止するよう強く求める。

私たちは、性能を確認する実験を含むすべての核実験並びに核兵器開発計画の即時中止を求める。そして、核兵器禁止条約の主旨を尊重し、核兵器の全面使用禁止・廃絶の一刻も早い実現のために、日米両政府が真摯に対応するよう、強く要求するものである。

以上